

想随曜日

健康研究とこども園

弘前大学の健康研究が文部科学省研究開発プロジェクト中間評価で全国一位となった。誠に喜ばしい限りである。

今年度、青森中央短期大学で幼稚園教諭免許取得講座の教師論を担当した。青森県の認定こども園の充足率は27年度の施設数158、全国4位からさらに上昇し28年度208施設、3位となった。国の規定では、保育園の保育士からこども園の3歳児以上のクラス担任になるためには両方の免許が必要となる。5年間に限り優遇措置が実施されて今年は2年目となる。現職は働きながら週末講習を受けるという苦労が伴う。受講生は20代から60代まで100名にもほり他県からの応募もある。

次期学習指導要領を目前に控え、幼稚園教育にも一段と力が入っている。低年

齢での教育が国の発展に大いに寄与するという研究結果からである。

その中に健康保健という身体に関する項目があるが、青森県の実態には課題がある。園児から高校生まで体重が全国平均を上回る。短命県の現実に肥満が大きく関わっている。

短命県返上で皆が幸せに

短命県返上の第一人者弘前大学中路重之教授は極めて多忙であるが、受講生の授業のためにスライドの使用の了承を取ったところ移動中の飛行機内であったが即座に承諾した。中路氏の資料は完璧であり受講生も十分に納得した。

アンケートからは、「全国一の短命

県、若年層の早死が多い。私の夫も一昨年肝臓病で52歳で亡くなりました。死因はアルコールでしたが、他に塩分の多い食事もありました。子どものころからの食習慣で改善することができなかったのですが、やはり保護者の意識改革が一番必要ですね」と意識を高めることの必要

性が伝わり身につまされる思いであつた。

また、「『アメ』、『グミ』を食べて登園し、朝食抜きの子が多く見られているので、改めて食事の大切さを家庭と連携して進めていく必要性を感じた」「特に、タバコについて、母親も肺ガンで亡

くなっているのを考えた時期があった。母親自身、吸うより、灰皿に置いてることが多かったなあと思う。受動喫煙、副流煙の影響が大きいことをもつともつと、自身も家族も関わる子どもたちのことを考えて生きていこうと思う」等々さまざまな感想がある。子や孫へは大人が十分注意していただきたい。

大腸内視鏡の検査がオリンパスとの共同で日本で初めて診断と治療に使われたのは弘前大学医学部内科学第一講座であることは意外と知られていない。弘前大学の健康研究の成果を県民一丸となって長寿を目指し取り組んでいきたいと思う。減塩、運動、睡眠、減酒、禁煙など本人のみならず家族みんなのためにお互い気をつけていきたい。

（元黒石幼稚園長 山内孝行）